

資料館だより

2026.7.1 No.131 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

「資料館だより」は、前号からデジタル版での発行となりました。パソコンやスマートフォンでご覧いただき、個別記事中の「[詳細とお申込は、こちら](#)」等をクリックされますと、当館ホームページや外部サイトに移動します。引き続き、「資料館だより」をご愛読いただけますと幸いです。

国立ハンセン病資料館は、2027年4月の常設展示リニューアルに向けて、
2026年12月1日から2027年3月31日まで休館いたします。

現在の常設展示を見学いただけるのは残り5ヵ月となります。改めて皆さまのご来館を心よりお待ち申し上げます。

国立ハンセン病資料館のVR (バーチャル・リアリティ) プログラムが始動しました



VRプログラムの様子

常設展示室におけるVRプログラムを新たに導入しました。最先端の映像技術を駆使した本プログラムは、専用ゴーグルを参加者に装着していただき、2本の映像体験を通じて隔離政策下の入所者の被害に迫ります。

1本目の映像では、^{きくち けいふうえん}菊池恵楓園（熊本）に今も一部があるコンクリートの壁、^{たまぜんしやうえん}多磨全生園（東京）を囲んでいた^{おく こうみやうえん}柵の垣根、^{ながしまいせいえん}長島愛生園（岡山県）が設置された長島と本州とを隔てた^{せみぞ}瀬溝をご覧ください。いずれも療養所を社会から隔てるものとしてあり、それらによる入所者への抑圧は、身体的なものであり心理的なものでもありました。

2本目の映像では、入所者の高齢化と減少を迎えた現在の^{たまぜんしやうえん}多磨全生園の様子（2025年12月撮影）をご覧ください。こちらでは、収容門跡、^{つぎやま}築山、納骨堂などを紹介し、強制収容・終生隔離による被害をたどることで、ハンセン病療養所とはどのような場所であったのかをわかりやすく伝えます。ハンセン病問題は今なお深刻な人権課題であり、当館のVRプログラムはこの課題を理解するための端緒になれば幸いです。開催の日程については、当館のHPでご確認ください。（吉國元）[詳細は、こちら（資料館HP）](#)



コンクリートの壁



柵の垣根



瀬溝

企画展 ハンセン病療養所のなかの「外国人」

ハンセン病療養所に入所していた海外ルーツの人びとに光を当てた企画展を、7月18日（土）から11月29日（日）に当館企画展示室で開催します。

本企画展では、とりわけ数の多かった在日朝鮮人※の入所者に関する資料を中心に構成しています。苛酷な土木作業に用いられた道具、年金獲得をめぐる闘争の記録、民族のアイデンティティを守ろうとした生活の様子、民族舞踊の衣装や楽器、文学作品などをテーマごとに整理し、これらを初めて一堂に展示します。ロシアやインドネシアや台湾にルーツを持つ入所者にも注目します。

展示を通して、多様な人びとが過酷な隔離政策のもとで闘い、尊厳を保って生きた姿を伝え、ハンセン病問題への理解を深めるとともに、多民族共生という現代的課題についても考える契機とします。

常設展示リニューアルに伴う休館前最後の企画展です。関連イベントとあわせて、ぜひご来館・ご参加ください。
(木村哲也)

※本展示では「朝鮮籍」「韓国籍」を問わず「朝鮮人」の語を使用します。



[企画展詳細と以下の関連イベントの詳細及びお申込みは、こちら（資料館HP）](#)

● 関連イベント（ギャラリートーク以外は、事前申込が必要です） ●



トークセッション
アーサー・ビナード（詩人）×
木村哲也（担当学芸員）

あなたの『母語』は何ですか？—
あえて日本語でものを書く人びとを探る

8/22(土) 14:00～15:30

会場：当館映像ホール
(定員140人) ※申込受付中



劇団タルオルム
演劇「鳥のおっちゃん」
上演

9/19 (土) 2回公演

①11:00～12:30

②14:30～16:00

会場：多磨全生園公会堂
(定員各回200人)

※申込は8/1から受付開始



ほしな ひろふ
星名宏修（一橋大学教授）
講演会

「植民地期台湾のハンセン病文学」

10/25 (日)

14:00～15:30

会場：当館映像ホール
(定員140人)

※申込は9/1から受付開始



なかがわ たかし
中川 敬（ソウル・フラワー・ユニオン）
弾き語りソロライブ

11/14 (土)

15:00～16:00

会場：当館映像ホール
(定員140人)

※申込は10/1から受付開始

木村哲也（担当学芸員）によるギャラリートーク [全10回]

7/19、8/2・8・14、9/13・27、10/3・17、11/22・28 すべて14:00から（45分）

会場：国立ハンセン病資料館 企画展示室 事前申込：不要

7月～9月の常設展示解説

学芸員による常設展示室の「スポット展示解説」です。展示室2はかつての隔離政策のもとで入所者が強いられた療養所での過酷な生活を展示しています。展示室3は人生被害に対して尊厳を回復して来た入所者の活動について展示をしています。学芸員が分かりやすく解説いたします。

当館は本年12月1日からリニューアルに伴い休館します。この常設展示室をご覧になれるのもわずかです。ぜひご参加ください。(田代学)

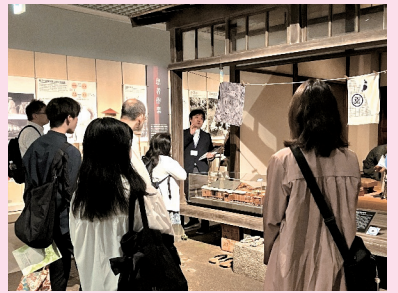
【日程(7月～9月分)】◆展示室2、★展示室3 それぞれの解説日

★7月4日(土)、◆7月11日(土)、★8月1日(土)、◆8月9日(日)、

★9月6日(日)、◆9月12日(土)、★9月21日(祝)、◆9月22日(祝)

【時間】13時30分から30分程度

【定員】各回先着20名(開始30分前から受付で整理券を配布) [詳細は、こちら\(当館HP\)](#)



チョウグンジェ

趙根在の写真を紹介する館外展示を開催します



当館では昨年度より、かつて「壁の向こう側」であったハンセン病療養所と入所者を撮影した趙根在の写真8点を紹介する館外展示を継続的に実施しております。7月から8月にかけて、下記の2か所で館外展示を行います。お近くにお出かけの際は足を運んでいただけますと幸いです。(大高俊一郎)

※展示会場は国立ハンセン病資料館ではございませんのでご注意ください。

その壁の向こう側 ―写真が語るハンセン病問題の真実―

(1) きぼーるアトリウム

【会期】2026年7月10日(金)～7月16日(木)

8時30分～20時(初日は14時から、最終日は15時まで)

【会場】[きぼーるアトリウム\(千葉市中央区役所1階\)](#)

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4-5-1

(2) 横浜市役所アトリウム

【会期】2026年7月22日(水)～8月4日(火)

9時～21時(初日は14時から、最終日は16時まで)

【会場】[横浜市役所アトリウム 1階 展示スペースB](#)

〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町6-50-10

【担当】事業部社会啓発課 [詳細は、こちら\(当館HP\)](#)



国立ハンセン病資料館・開館カレンダー

[開館日・イベント開催日は、こちら\(当館HP\)▶](#)

国立ハンセン病資料館「お知らせメール」では、「資料館だより」を含めた最新の情報をお届けしています。

[「お知らせメール」の詳細と登録は、こちら\(当館HP\)▶](#)

国立ハンセン病資料館公式SNS

フォローやシェアをお願いします!

[Facebook▶](#)

[X▶](#)

[Instagram▶](#)

[YouTube▶](#)



『生きぬいた証に』

図書室より

今回ご紹介するのは、立教大学史学科山田ゼミナール編『生きぬいた証に ハンセン病療養所多磨全生園朝鮮人・韓国人の記録』（緑蔭書房、1989年）です。

本書は、立教大学史学科山田 昭次ゼミの学生が、在日朝鮮人・韓国人の多磨全生園入所者への聞き取り調査を行い、まとめたものです。

日本の植民地支配により劣悪な生活を強いられたことによる発病と、富国強兵策の一環として行われた強制隔離。戦時下の在日外国人ハンセン病患者は、日本の帝国主義による被害を二重に受けた存在であるといえます。民族差別と貧困、強制連行・強制労働の過酷さ、女性として母としての苦勞、戻れない故郷への想いなど、在日外国人として受けた被害がまざまざと記録されています。

また本書では、差別による苦難のみならず、苦難のなかで得た逞しさや他者へのやさしさ、民族としての誇りを記録することも企図されており、ひとりひとりのライフヒストリーから、その人特有の生に触れることができます。それぞれの記事の最後には、聞き取りを行った学生の感懐も述べられており、若者が聞き取りから何を学び取ったのかを知ることができます。

排外主義が俄かに猛威を振るう現在、過去に行われた日本の植民地支配の責任を痛烈に訴えかける本書から、われわれが学ぶべきことは多いと思います。（長谷川秋菜）

[図書室のご利用案内は、こちら（資料館HP）](#)

好評開催中

クイズ企画「知って考えよう ハンセン病と人権」

展示を見ながら挑戦できるクイズを開催中です。常設展の資料を見れば、答えのヒントは展示の中に。なんとなく通り過ぎていた写真や資料も、「これってどういう意味だろう？」と立ち止まるきっかけになるかもしれません。小学生から大人まで、どなたでも参加できます。

解答後には解説シートと参加記念品をプレゼント。記念品は、輪っか下駄のオリジナル消しゴム、舌読の写真入りノート、資料館ロゴ入りエコバッグの3種類から1つお選びいただけます。

参加者アンケートでは、「ハンセン病問題について考えるきっかけになった」が93%、「少しなった」が7%。クイズを通して、多くの方が展示のその先にある問いに触れています。



お知らせ

「資料館だより」は、前号からデジタル版（PDF）での発行となりました。当館HPから閲覧・ダウンロードが可能です。[「資料館だより」バックナンバーは、こちら（当館HP）](#)

国立ハンセン病資料館 利用案内

- 開館時間 9：30～16：30 [利用案内の詳細は、こちら（当館HP）](#)
- 入 館 無料
- 休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日
- 交 通
 - ・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分（「ハンセン病資料館」下車）
 - ・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分（「ハンセン病資料館」下車）
 - ・J R 武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分



〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>